

大いなる飛躍へ

 JA上川中央



伏古地区
農事組合法人
下伏古菌茸生産組合

2015

NO.90

発行・上川中央農業協同組合
愛別町本町125

Tel(01658)6-5315

URL <http://www.ja-kamikawa.or.jp/>

編集・宮農振興課

9



農業振興への功労が認められての叙勲 前愛別町農業委員会会長中嶋秀明さんが旭日双光章を受章

4月29日、平成27年度春の叙勲における受賞者が発令され、前愛別町農業委員会会長の中嶋秀明さんが旭日双光章を叙勲されました。

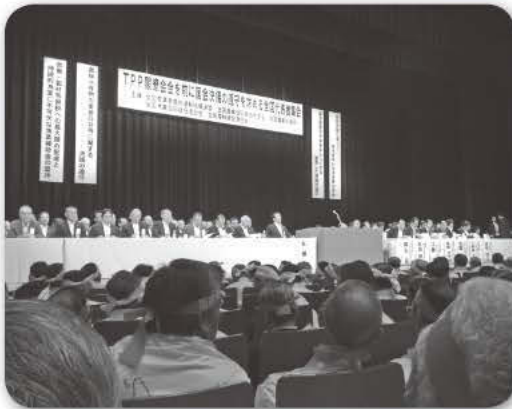
旭日章は、国家又は公共に対し功労のある者で社会の様々な分野で顕著な功績を挙げた者に贈られ、中嶋さんは、愛別町農業委員・会長職務代理・会長また上川地方農業委員会連合会の理事・副会長・会長を歴任、北海道農業会議副会長を務め、農業振興への功労が認められての叙勲となりました。

7月11日、叙勲を祝う会が地元農業関係の有志により開催されました。



TPP
環太平洋連携協定

閣僚会合前1,500人訴え 国会決議 譲れぬ一線 TPP全国集会



7月27日、東京都港区で農林漁業関係者ら1,500人によるTPP全国集会が開かれ、当JAから野口組合長が参加し大筋合意に強い意欲を示す政府に対して、重要品目の聖域確保を求める国会決議の遵守が譲れない一線だと訴えました。

全中の大西常務は、米をはじめ日本が重要品目で譲歩を検討しているとの報道が相次いでいることを説明。食料自給率向上を掲げる新たな食料・農業・農村基本計画の実現のためにも「国会決議の遵守は極めて大きなテーマだ」と強調しました。

最後には、JA全青協の天笠会長の音頭で頑張ろう三唱を行い、国会決議の実現に向け意志結集しました。



— 知ってなるほど農と食！ — 農業試験場公開デーに特産品が集合

8月5日、上川農業試験場で第20回上川農試公開デーが開催されました。

当日は、各種イベントの他に当JAをはじめ、比布町・当麻町の各JAと旭川農業高校が中心となり、地元の特産品をPR販売しました。

愛別町からは、各種きのこ及びもち米・きゅうり・米なす、上川町からはプリン及び朝もぎ母さんの会の野菜などが品を揃えました。

今後も催事などを通じて地元のおいしい味覚を多くの方にお届けしていきます。



平成27年度JA上川地区女性部 管外役員視察研修報告

JA上川中央女性部 愛別支部 平井孝子・上川支部 辰巳明美

7月6～9日までの4日間、JA上川地区女性部の管外役員視察研修に参加させていただきました。

《1日目》

新千歳空港出発時に団結式・宿泊施設到着後、女性部事業打合せを行いました。

《2日目》

①現地ボランティアによる南三陸被災地視察

去る平成23年3月11日（金）、太平洋三陸沖を震源地として発生したマグニチュード9.0の日本の観測史上最大の災害、この体験をした語り部ガイドさんからお話を伺いました。

自然災害の脅威・命の大切さや家族との繋がり等、震災から学んだ事・教訓になった事を伝えていただきました。



浸水エリアの視察や南三陸さんさん商店街など見学しました。



②農事組合法人 せんだいあらはま 視察

仙台市若林区にある荒浜地区は津波で甚大な被害にあった地域で、佐藤善一代表から組合立ち上げから現状、今後の展望までお話しいただきました。

平成26年は念願の田植えも再会し、JAが推進する効率化を重視した最新の農業施設・作物・作業方法など色々知ることができました。



《3日目》

- ①飯盛山
- ②会津漆器工房 鈴木
- ③野口英世記念館
- ④世界のガラス館

《最終日》

①笹かま作り体験

新千歳空港到着後、解散式を行いました。

更なる東北復興を願いながら、今回の視察研修にご協力いただきました関係機関各位に感謝申し上げます。簡単ではありますが、ご報告とさせていただきます。





劇団四季『キャッツ』の迫力に感激 JA女性部愛別支部 一日研修開催される

7月29日、JA女性部愛別支部の一日研修が部員35名の参加のもと開催され、今年は石狩市の「地場市場とれのさと」の視察見学と北海道四季劇場で劇団四季によるミュージカル「キャッツ」を鑑賞しました。

「地場市場とれのさと」では、農畜産物や加工品に加えて、海に近い利点を生かして、店長こだわりの海産物なども販売され、平日の視察見学でしたが多くのお客様で賑わっていました。

『キャッツ』のミュージカル鑑賞では、部員みんなが劇団四季の創り上げる空気に魅了され、今年は鑑賞途中の休憩時間に舞台上に上がる事もでき特別な時間を楽しみ、とても充実した研修となりました。



女性部活動について JA上川地区女性部研修会開催される

8月5日、JA上川地区女性部研修会が旭川市農業会館で開催され、JA北海道中央会旭川支所中島支所長より「JA北海道中央会の事業内容等について」、ホクレン旭川支所田辺次長より「ホクレンの事業内容等について」の講演の他、レクリエーションの中で、管外役員視察研修報告会と「女性部活動について」をテーマにグループ討議を行いました。



グループ討議では、いくつかのテーマ例を参考にしながら話し合いを行いました。大半が「女性部員の減少について」ということで、「いろいろな問題がありますが仲間との楽しい行事や交流の場があるので、少しでも参加してほしい」という意見が多く出ていました。

グループ討議では、いくつかのテーマ例を参考にしながら話し合いを行いました。大半が「女性部員の減少について」ということで、「いろいろな問題がありますが仲間との楽しい行事や交流の場があるので、少しでも参加してほしい」という意見が多く出ていました。



JA上川中央産米をPR… 愛別町米麦生産振興協議会道内実需者訪問実施される

8月10日、道内の取引先「北海道中央食糧株式会社」へ平成27年産米の出来秋を前に、愛別町米麦生産振興協議会から鉛口米麦会長、岡田・高田副会長、JAから野口組合長、愛別町役場から河合産業振興課長補佐に同行いただき実需者訪問を実施しました。

訪問先では、今年度の作柄及び販売情勢等について情報交換を行い、JA上川中央産米の販売促進を図ってまいりました。



夏だ!お祭りだ!旬の味覚が盛り上げる… あいべつ夏まつり開催

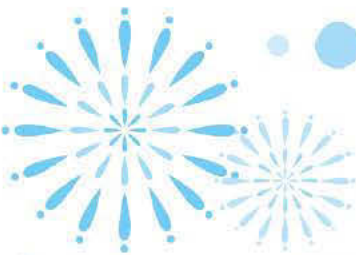
8月14日、愛別町ふれあい通り及び蔵ら裏イベント広場で第22回あいべつ夏まつりが行われ、当JAも参加しました。

当日は、各種イベントが開催され、JAでは「なめこ掘み取り」「愛別夏の陣」「もちまき」などへの催し協力の他に、出店もし、地元祭りを一緒に盛り上げました。

今年は、花火大会も開催され、間近で打ち上がる花火に会場は大興奮の様子でした。

出店では、焼き鳥やピールの他に自慢の特産きのこを使った「きのこお好み焼き」を販売、楽しい食も提供できました。

第40回納涼盆踊り大会ではJAからもエントリーをし、団体の部で「団体特別賞」を獲得することができ、終日にぎやかな楽しいお祭りとなりました。



出場者紹介

▶ 左上から
川村 雄太・荃津 和照・祭
北澤 知佳

▶ 左下から
佐々木佑梨・佐藤 佳美・祭
堀内 加奈



今月の表紙

- 法人名 / 農事組合法人 下伏古菌茸生産組合
- 代表者名 / 代表理事 中田 栄一
- 設立年 / 昭和54年
- 資本金 / 44,390千円(平成27年3月現在)
- 構成員数 / 7戸
- 生産物 / なめこ培養基・なめこ



表紙メンバーを
紹介します

(後列左から) 芦名 修・中田 尚靖・近藤 拓也
(理事)
(前列左から) 佐々木雅美・中田 栄一・田中 敏明
(代表理事)

あ



い

へ

2015.9.13 SUN 雨天決行
第29回
きのこの里 
フェスティバル

つ

会場/愛別ダム「きのこの里」広場 ●フェスティバル開催時間/AM10:00~PM2:30 ●きのこ牛肉の食べ放題/AM11:00~PM1:30
※大変混雑が予想されます。※愛別駅前・愛別町役場前から連絡バスをご利用ください。※お早めにお越しください。

出来秋に向けて宣伝販売を…

コープさっぽろ旭川地区 JA上川中央野菜フェア



7月30日、コープさっぽろ旭川の各店舗でJA上川中央野菜フェアが開催されました。

近隣の大型量販店での産直販売を展開するための取り組みで、当日は、きゅうり・米ナス・インゲン・ミニトマト・アスパラ・まいたけを販売、採れたての上川・愛別の野菜は各店舗で好評で出来秋に向けて期待のできる宣伝販売となりました。



催事活動で有利な販売を…

食べるたいせつフェスティバル

8月22日、スポーツ交流施設つどーむ（札幌市）でコープさっぽろ主催の食べるたいせつフェスティバルが開催されました。

愛別産まいたけのバター焼きと大雪高原牛のサイコロステーキの試食を行い、コープさっぽろ組合員へ美味しさをPRする事ができました。

試食をした人達の感想もナットク！の味で好評をいただき、今後も催事などへの参加で地域の魅力を伝えていきます。



十両昇進を祝い…

「はくちょうもち」を進呈



8月22日、ケースデンキ月寒ドーム（札幌市）で大相撲の札幌場所が開催され、旭大星関の十両昇進を祝って愛別町産「はくちょうもち」2俵を野口組合長より進呈いたしました。

旭大星関は旭川出身で、愛別町出身の元大関 旭國の大島部屋に在籍、もち米を食べて秋場所での活躍を期待しています。





ストップ！ 農作業事故

収穫期の事故防止

人間工学専門家 ● 石川文武

多くの農作物が間もなく収穫の季節となります。心を込めて育てた作物を満足のいく形で手に入れるための第一歩は安全に作業を行うことです。事前の準備と作業中、作業後の安全確保が大切です。

事前の準備では、点検整備が欠かせません。これを怠ると作業中のトラブルで時間と品質を失います。整備工場に依頼する以外に自分で整備できる場合もあります。消耗品などは自分で交換しましょう。

収穫期には、圃場（ほじょう）内外での事故が多く発生します。組み作業では合図と共同作業者の居場所の確認を必ず行いましょう。「分かっているはず」「大丈夫だろう」とはいけません。機械の操作では事故が起きなくても、収穫物の運搬や手作業で事故が発生します。コンバイン作業を例にすると、手こぎ時のフイー



ドチェンへの巻き込まれ、袋取りもみ運搬時のぎっくり腰があります。高圧線近くでのオーガーによる搬出時の感電にも注意が必要です。圃場間移動でも、コンバイントラクタに固定しないでの積載、不確実な連結などで事故が起こります。詰まりが起きたときには、エンジンを停止させてから取り除きましょう。見ただけで止まっても、抵抗がなくなれば機械は動きまわります。慌てずに「トラブル発生時はまず止める」です。水稲以外でも収穫の時期になります。選択収穫の場合には、人力作業が主となります。作業姿勢と運搬方法、労働時間に配慮しましょう。無理は禁物です。機械での一斉収穫ができる作物では、例えばジャガイモ、ビート収穫機のように運転者以外に機械後方に選別作業者がいます。選別者の負荷が大きくなりすぎないように運転者が作業速度を適正にする必要があります。牧草収穫では傾斜地作業があります。直進時だけでなく旋回時の転倒を防ぐため地表の起伏を確認することも大切です。作業後には必ず点検を行い翌日、来年に備えましょう。

するーらいフ 穏やかな日々

我が家のドラは猫である。初対面の時に、飼い猫だったのだと言う雰囲気があった。しかし両耳を凍傷で痛め、両耳とも先端2センチ程がない。氷点下の車庫で発見された。すでに15年以上の同居生活であるが、最近では腎臓機能低下に見舞われ、週1回の点滴が欠かせない身となった。彼の1日9割は睡眠であり、体力は早朝と夕刻の食事催促の「猫撫で声」のために温存している。ところでミドリガメが特定外来種に指定された。祭りや屋台でお目にかかる「ミシシッピアカミミガメ」が正式名称である。1960年代から輸入が始まりその数、年間10万匹である。



小さい可愛い亀は子供達のペットとなり、自宅で飼育されるようになった。我が家の猫も可哀想と言う感情が最初にあった。しかしその感情だけでは、長い愛玩動物との付き合いは持続しないのだ。飼い主も年齢を重ねて行く。亀も成長をして行く。鶴は千年、亀は万年とは行かないが、かなりの生命力の持主の亀である。その亀の世界では今、日本固有の在来種である「クサガメ」や「ニホンイシガメ」が絶滅危惧種に指定される変わり様である。川の中の小昆虫やミミズなどを好物とした在来種の世界が、農産物であるレンコンなどを食い荒らす「ミドリガメ」に置き換わらんばかりの勢いなのだ。

可愛いと言って亀を飼育していた子供達は巣立ち、置き去りにされたミドリガメは河や堀に捨てられて行ったのだ。命の長い動物と接することは難しい。彼らの命を見届けられるか、飼育が困難になった時の対処法を熟知しているか、愛玩動物を育てる者の責務である。「浦島太郎」は、棒切れで子供達に痛み付けられている亀を漁師が助け、恩返しで漁師を竜宮城へ招待する御伽噺。「兎とカメ」では、小高い丘までの競争でカメの粘り強い歩きが勝利するとの寓話である。古くから縁起の良い動物として崇められた末が哀しい。

ミドリガメは侵略的外来種と表記されるまでになってしまった。『兎と亀』には続編があり「カメとワシ」のインソップ童話がそれである。何でもやれば出来ると自信を持ったカメは空を飛びたくなった。ワシに頼んで爪で吊るしてもらい、大空を飛んだ。カメは自分で飛べると錯覚をした。ワシが爪からカメを外すと、カメは真逆様に落ちて行き、地面に思い切り叩きつけられた。…ミドリガメには罪はない。飼い主から放された堀に住処にただけである。自分で生きて行くために食べ物を漁っただけである。あながち映画に登場するガメラの発想を、誰も笑うことは出来ない。

《大切なお知らせ》

鳥獣被害対策用の電気柵施設における安全確保について

JA上川中央・愛別町・上川町

住民の皆様へ

適切に設置された電気柵は安全ですが、電流が流れていますので、昼夜を問わず電気柵には触れないようにするほか、外で遊ぶお子様にも注意喚起をしていただきますようお願いいたします。

農家で電気柵を設置している方へ

「電気柵」は野生鳥獣からみなさんの大切な農作物などを守る重要な防護資材です。使用に当たっては電気事業法の設備基準に従うとともに、電気柵用電源装置は安全が確認された製品を使用し、適正な設置と管理により事故防止に努めましょう

具体的には、下記の項目を守ることによって感電を防止できますので、感電防止に向けた適切な対応をお願いします。

① 注意表示板の掲示

電気柵を設置する場合は、周囲の人が容易に見られる位置や間隔、見やすい文字で危険を知らせる注意表示板を必ず設置してください。

② 設置後の適正管理

電気柵設置後は、断線や草木等による漏電がないか定期的に点検を行い、安全を確保して下さい。

③ 安全が確認された電気柵用電源装置の使用

30ボルト以上の電源（家庭用のコンセント等）から直接電気柵につなぐと、感電や火災など重大事故の危険がありますので、安全のため電気用品安全法の適用を受ける電気柵用電源装置を使用してください。

④ 漏電遮断器の設置

公道沿いなどの人が容易に立ち入る場所に設置する場合で、やむを得ず30ボルト以上の電源から電気を供給する場合は、必ず漏電遮断器を設置してください。

⑤ 専用の電源スイッチの設置

電気柵に電気を供給する回路には、容易に電源を入切できる箇所に専用のスイッチを設置してください。

⑥ その他

詳しい内容は、農林水産省ホームページをご覧ください。

※上記1～5は、電気事業法に基づく電気設備に関する技術基準を定める省令により義務づけられています。

※特に、観光地や住宅地に近い農地に設置する方は、上記の注意事項を必ず守り、一般の方に電気柵を設置する理由と危険を知らせてください。

※適正な設置確認をしていただき、危険を知らせる注意表示板が不足している場合は、JA購買課に簡易表示板を用意しておりますのでご利用下さい。

本所愛別資材店舗
支所上川資材店舗

電話番号 6-5314
電話番号 2-1338

(例)



JA資材店舗で簡易の注意表示板を用意しています。

